# 報告

## 第23回全国有床診療所連絡協議会総会に出席して

常任理事　深澤　雅則

第23回全国有床診療所連絡協議会総会が平成22年７月31日(土)、８月１日(日)の２日間にわたり岡山県岡山市の岡山コンベンションセンターで開催された。

今回のメインテーマは「地域医療を守る有床診療所に未来を！－安定経営が安心医療を提供－」である。

初日は午後２時10分から総会が開かれ、岡山県医師会会長 井戸俊夫氏と全国有床診療所連絡協議会会長で日本医師会常任理事の葉梨之紀氏の挨拶で始まり、日本医師会会長 原中勝征氏が祝辞を述べられた。

講演Ⅰ「有床診療所の再認識」を日本医師会会長 原中勝征氏が講演。講演Ⅱ「社会保障ニューディール政策」を参議院議員（適切な医療費を考える議員連盟会長）桜井充氏が講演された。

その中でWHOの健康達成度は日本が世界一であり、国の出している費用はOECD加盟国中21位と低いにもかかわらず、医療費が安く、アクセスも良く、質も良い。今後、雇用を生み出すのは公共事業ではなく医療・介護・社会福祉の分野であると述べられていた。

夜の懇親会は場所をホテルグランヴィア岡山に移して行われた。岡山県副知事、岡山市副市長の祝辞など40～50分してやっと乾杯となった。アトラクションは日本舞踊やエスペランサ（ギター・マンドリン・ケーナ演奏）が行われ、とてもハイレベルであった。岡山は桃が有名で丁度発売し始めで、デザートに一切れ出された。外では花火大会が催され、桃太郎祭りの時期であった。

２日目は講演Ⅲ「これからの医療」を前参議院議員 西島英利氏が講演された。シンポジウムでは「地域医療を守る有床診療所に未来を！」をテーマに５人のシンポジストのお話しがあった。その中で東京女子医科大学教授で、前日本経済新聞社論説委員の渡辺俊介氏は「成長戦略としての医療改革」と題して、成長戦略の方法論の「第１の道」は自民党政権下で長年にわたって続けられた公共事業に巨額の国費をつぎ込んだことであり、膨大な借金が残り経済は低迷した。「第２の道」は規制改革による民間企業の活性化を目指した小泉内閣の構造改革路線であり、各企業の競争激化でリストラなど失業者が増加し格差も拡大してしまった。「第３の道」は雇用や需要に焦点を置いて財政出動をさせるべきであり、雇用、需要を増やすのは社会保障の分野である、と明言していたのが印象に残った。

講演Ⅳ「平成22年度診療報酬改定－有床診療所の評価を中心に－」は厚生労働省保険局医療課課長補佐の佐々木健氏が講演。特別講演（県民公開講座）「日本の医療史－特に入院施設の歴史－」を日本医史学会理事長、順天堂大学名誉教授 酒井シヅさんが講演された。民間の入院施股、病院などができる経緯など興味深く拝聴した。

来年の第24回全国有床診療所連絡協議会総会は埼玉県医師会 金井忠男会長のもと平成23年８月６日(土)、７日(日)大宮ソニックシティとパレスホテル大宮で開催される予定である。

井戸岡山県医師会長の挨拶

原中日本医師会長の講演